

第2回おのみち100km徒歩の旅を経験して

私は、大学4年生のときに「おのみち100km徒歩の旅」に出会いました。小学校の教員を目指していた私は、何か得るものがあればという気持ちで学生ボランティアとして参加することに決めました。

本番までには、数回の学生ボランティアの研修がありました。そこで、医療関係の専門学校に通う人や、様々な道を目指す仲間に出会いました。大学という狭い領域にとどまらず、様々な仲間の意見を聞いていく中で、自分の考え方・価値観が少し変化したように感じます。

そして、本番の5日間では、子どもたちと共に学ぶ日々となりました。当たり前のことですが、子どもは一人一人違います。一緒に歩いていく中でどうしても列から遅れる子どもがいました。遅れてしまう子どもたちにも、遅れてしまう理由はそれぞれあるということが少しずつ分かるようになりました。同じ声かけをしても子どもによって、がんばれる子とそうでない子がいたのです。「子どもたちをサポートする」ということは、「子どもたちを理解する」ということだと、そのとき学んだような気がします。それは、今小学校の現場で働いていても感じることです。できるだけ多く子どもたちと関わり、信頼関係を育んでいくこと、子どもの想いを敏感に読みとること、それが大切なことだと思います。

子どもは、無限の可能性を秘めています。100km歩いた5日間で、だんだんと顔つきが変わっていく子、涙を流す回数が減った子、列から遅れる回数が減った子、かけがえのない友だちを増やす子、耐えることを知った子、様々な子どもと出会うことができました。

社会人となった今、そのときをよく思い出します。学生までとは違い、毎晩遅くまで働き、辛いこともたくさんあります。しかし、頑張ったその先には子どもたちの成長があります。その姿を見ることの喜びを知ったのが、おのみち100km徒歩の旅だと思います。

共に歩くということを通して、子どもたちからも、周りの仲間からも多くのことを学びました。一人では、誰も100km完歩することはできません。さまざまなところで、さまざまな人たちの支えがあったから全員完歩することができたんだと思います。子どもたち、仲間、すべての人たちに対する「感謝」の気持ちを忘れず、今できることをがんばっていこうと思っています。

おのみち100km徒歩の旅は、そんな旅でした。

(福山市立南小学校 宮内 建治)